

宮崎県漁協青壮年部連絡協議会

会長 中野 利勝

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、会員及び関係団体並びに行政の皆様方におかれましては、本協議会の主旨にご賛同のもと、多大なるご協力、ご高配を賜り誠にありがとうございました。

書面をお借りし御礼申し上げます。



さて、我々漁青連は、自主自立の組織として、会員相互の連絡調整を図り、漁協・関係団体と提携して会員の組織活動強化を促進し、県内水産業の発展と漁村文化の向上に寄与することを目的に活動を行っております。

昨年は、魚食普及・担い手対策・都市漁村交流活動の一環として、宮崎県学校給食会主催の「ひむか地産地消交流給食会」に参加し、県内の小学校にて食育授業を行いました。授業を通して、小学生に県内で漁獲される魚種や漁法を学んでもらい、参加したメンバーも若いパワーを目の当たりにし大変頼もしく思ったところであります。

また、県庁楠並木通りを会場として開催されている朝市へ数年ぶりに会員メンバーで参加しました。朝市では、県下会員が漁獲した生鮮水産物を販売し、宮崎県産水産物の普及活動をおこないました。活動を通し、会員間の絆を更に深めることも出来ました。

一方、我が国水産業界を見ても、水産物の消費減退や魚価低迷、資源状況の悪化、漁業就業者の高齢化と人員不足に依然悩まされております。そのような中で、燃油価格及び漁業資材の高騰、高止まりが続いており、漁家経営に深刻な影響を及ぼしております。また、ALPS処理水の海洋放出も喫緊での課題であり、今後本県の水産業にどのような影響があるのか先行きが不透明であることから、注視していく必要があります。

このような中で、我々漁青連としましても、全国組織である全国漁青連に積極的に参加し、各地域の漁協青壮年部と情報交換を行い、組織強化を図るとともに、会員の教育研修を実施することにより柔軟な発想を育み、若い力を集結し一丸となって邁進し、漁業・漁村の活性化に努めてこの厳しい状況を乗り越えて参ります。

結びになりますが、本年もより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに、皆様方のご健康とご多幸、並びに大漁を御祈願し、私の挨拶とさせていただきます。